

支援を機に技術流出リスクの感度が向上 リスクミニマムの海外展開を目指す

本 社 〒891-0702
鹿児島県南九州市穎娃町牧之内9325番地
TEL：0993-36-1161 FAX：0993-36-2829

U R L <http://matsumotokiko.co.jp/index.html>

業 務 内 容 松元式茶園管理作業機、松元式さとうきび収穫機等の製造・販売

設 立 年 昭和56年5月 **資 本 金** 2,000万円 **従 業 員 数** 98名



代表取締役社長
松元雄二氏

1956年に創業した松元機工は、同年に茶を摘み取る機械である「バッテリー式回転刃型茶摘採機」を開発／完成させて以降、乗用型茶摘採機やサトウキビ収穫機、乗用型枝豆収穫機を中心とした各種農業用機械を手掛ける業界のパイオニア企業である。このうち、乗用型茶摘採機は40年程前から海外展開しており、エクアドル、パプアニューギニア、南アフリカなどの世界中の茶産地へ輸出した実績があり、近年は新たに乗用型枝豆収穫機をタイ、中国へ輸出している。

■海外企業との直接取引への対応が急務に

同社の主力商品である動力式茶摘採機とサトウキビ収穫機については、業界では一定の地位を築き上げてきたものの、国内では既に需要が一巡してきたこともあり、事業環境は厳しくなってきたという。一方、海外では動力式茶摘採機とサトウキビ収穫機について今後も高い潜在需要が見込まれるとされていたことから、同社にとって海外事業の拡大が急務であった。

そのような折、中国企業から引き合いがあり、サトウキビ収穫機を販売することになった。同社はそれまで製品は全て国内の商社を介して海外へ販売しており、海外企業との直接取引の経験はなかった。しかし、今回はその中国企業と直接取引をしなければならなくなり、従来とは勝手が異なるものであった。実際に取引を始める

にあたり「契約などをどう進めて行けば良いか、勝手が分からない状況だった。」と、同社松元社長は当時を振り返る。

ちょうどその頃、九州経済産業局の主催で開催された2015年の「海外展開支援施策説明会」に参加した同社は、その会場で以前から付き合いのあった鹿児島県知財総合支援窓口の濱石氏に今回の件を相談したところ、事業PRのためにその説明会に参加していた海外知的財産プロデューサーを紹介され、名刺交換した。

■技術流出のリスクを認識

この出会いをきっかけに、海外知的財産プロデューサーが後日改めて訪問し、同社への支援が始まった。

取材企業の声

これまで知財に関する取組みは大半を自社内で完結してきたが、海外知的財産プロデューサーの支援を受けたことで、必ず弁護士など専門家に相談しながら進めなければならないということを痛感したし、それに気づけたことはよかったと思う。

また、どのように契約していけば良いか分からない状況で、担当のプロデューサーから、自身の知見に基づき、さまざまな観点から適切なアドバイスをしてもらえたことも非常に有難かった。（同社 松元社長）



松元機工の本社社屋

元々同社は、創業以来特許取得や意匠登録を積極的に進めてきており、2002年度には「工業所有権制度活用優良企業」として特許庁長官表彰を受賞するなど、知財の重要性を強く認識していた企業である。よって、同社を担当したプロデューサーから最初の面談で「本案件は技術流出のリスクがある。」とのアドバイスを受けた際、早急に対策を講じる必要性を感じたという。

当時の同社はまだ中国企業との間で正式な契約を交わす前段階であり、担当プロデューサーから、契約に関する留意点や、海外取引に精通した弁護士活用の必要性等のアドバイスを受け、それを基に、同社は弁護士を選定し、その弁護士を交えて契約書を作成し、最終的には同社にとって望ましい内容で契約を締結できたという。



同社のサトウキビ収穫機
「松元式小型ケーンハーベスター」

■チーム丸での知財支援を推進

海外知的財産プロデューサーの支援もあり、同社は、中国企業に対するサトウキビ収穫機の輸出を無事終えることができた。さらにその後、同社の製品が好評とのことで、中国企業から大量の追加発注が来た。輸出によりこの発注に対応するには関税や供給能力等の課題があることなどを考慮し、ライセンス供与や生産委託により現地で製品を生産する方向でビジネスを進めた方が良いという話に発展していったという。

このように、本案件については、当初の「輸出」から、現在は「ライセンス供与」や「生産委託」という方向へとビジネスのステージが上がってきているが、「ステー

ジが上がるにつれて技術流出のリスクも増大する。」と担当プロデューサーは語る。そのため同社は、担当プロデューサーからライセンス供与や生産委託における技術流出対策に関するアドバイスを受けた。また、ライセンス供与、生産委託においてはブランド管理も重要な事項のひとつであり、その点についても同社は担当プロデューサーからアドバイスを受けている。

今後も、海外知的財産プロデューサーだけでなく、鹿児島県知財総合支援窓口担当の濱石氏や、弁護士などの専門家も含めたチーム丸となって同社の海外展開への支援は継続していくこととなる。

支援を振り返って

今回支援した松元機工は、技術レベルが非常に高く、社員も皆高い意識の基、フットワーク良く取り組んでくれたため、担当プロデューサーとしても非常に支援のしがいがあり、本事業も必ず成功すると確信している。

同社が高い意識も持って支援に臨んでくれたのは、鹿児島県知財総合支援窓口の濱石氏がしっかりフォローをしてくれたことが大きいと感じている。海外知的財産プロデューサーだけでは全国に在る支援企業をきめ細かくフォローすることは難しく、知財総合支援窓口をはじめとした他機関との連携が重要である。（海外知的財産プロデューサー 久永道夫）

今後の 事業展開

まずは現在進行中のサトウキビ収穫機の中国での事業展開を上手く軌道に乗せることが第一の目標である。プロデューサーのアドバイスを基に、ブランド名保護の観点から既に中国で商標を出願しているが、今後は現地での特許や他の知財権の取得などについても前向きに検討していきたい。

サトウキビ収穫機については中国以外の国からも引き合いが来ているが、マーケットボリュームが大きい中国市場で着実に事業を進め、その成果を踏まえ対応していく考えである。